様式第2号（第2条関係）

備前楷の木賞推薦書（団体）

令和6年12月20日

推薦書作成者職氏名

ふりがな 名 称	<small>びぜんしりつひなせちゅうがっこう</small> 備前市立日生中学校 生徒会・日生地域の方々と
所 在 地	備前市日生町日生241-14
ふりがな 代表者氏名	
代表者職業	
成績顕著と認められる事項 (別紙により提出)	賞の種類【地域貢献賞 スポーツ賞 芸術文化賞 学び賞（学校現場） 】 「地域と共にある学校」を目指して ○活動のきっかけ、開始時期 長年、本校で総合的な学習の時間で取り組んできた日生地域での海洋学習や、生徒会主催で行っている地域清掃ボランティア活動などの取組を、整理・統合、再定義を図り発展的活動に取り組みながら、15年先を見据えた、「地域と共にある学校」づくりを進めている。 別紙 ○具体的な活動内容等 ○具体的な成果 ○活動の将来的な目標、展望
その他参考となるべき事項	学校だより（『ひとのあいだ』） 新聞記事

成績顕著と認められる事項（別紙）

○活動のきっかけ、開始時期

長年、本校では、継続的・計画的に、総合的な学習の時間で日生地域での海洋学習に取り組んでいる。海洋学習は、5月:流れ藻の回収・カキの種付け、7月:漁業関係者の方々からの「聞き書き」、9月:アマモの種取り・播種、11月:小学生とアマモポット作成、2月:カキの水揚げ・洗浄・選別である。また、生徒会主催で7月と12月に行っている地域清掃ボランティア活動にはいつも50人を超える生徒が積極的に参加し、周辺地域と日生駅、幹線道路の清掃・美化活動を行っている。このような「地域」を意識した学習・活動は今後も大切にしていくが、生徒数の減少（クラス数の変化・教職員数の削減）に伴い、現在、本校では、教育課程や校内校務分掌の工夫改善や見直しの必要がある。そこで、これまで取り組んできた学校の様々な教育活動においても、整理・統合、再定義化を図り、試行的実践を行いながら、十五年先を見据えた「地域と共にある学校」づくりを進めている。

○活動内容

（具体的な経緯・基盤整備）

- 1 PTAと協議し、ボランティア保険（全国社会福祉協議会）に全生徒加入のための予算化を図り、生徒が校外の活動に進んで参加できる学習環境を整えた。
- 2 社会福祉協議会日生支所と連携し、〈日生中ボランティア推進プロジェクト〉の体制を整えた。
- 3 2に合わせて、ホームページや学校便りにより、保護者や地域への情報提供・広報活動を行い、地域から学校へのボランティア（参画）依頼を募った。この活動で、「地域とともにある学校を目指して、未来のまちづくりのために、学校と地域が協働して、双方向での教育活動を推進していきたい。」という学校の思いを多くの方々に知っていただくことが出来た。
- 4 一般社団法人ジンジャーエールとNPO法人f.saloonと協働で、〈ひな中ほっとスペース〉を開設した。このスペースの目的は、地域でモデルとなる大人に出会うことで、豊かな生き方（ひと・モノ・コト）に触れたり、地域活動についての熱い思いを聴いたりする中で、シティズンシップ（市民性）の涵養、地域社会への関心を高めること、進路・進学意欲を喚起すること等で、毎月第1・3水曜日には、スタッフが常駐、毎回20人を超える生徒が足を運んでいる。このスペースでの出会いは、生徒の大きな「地域社会への参画の入口」となっている。

（具体的な活動の中で）

- 1 3年生は、これまで総合的な学習の時間で取り組んできた海洋学習や地域学習の総括のひとつとして、日生地域の方々との協議（聴き取り等）を重ね、『日生の応援団』をまとめ、中学校のホームページでの情報発信を行った。
- 2 地域ボランティア推進プロジェクトを中心とした地域からのボランティア参加依頼（12月現在、21件の依頼）を受けて、のべ180人の生徒が地域のイベントや清掃活動に主体的に参加した。
- 3 社会福祉協議会日生支所との連携を密にし、7月と12月に行う地域清掃ボランティア活動は、中学生（生徒会）だけで行う活動ではなく、川東地区協議会の方々との協働で実施することができ、ネットワークも広がった。
また、校内でもボランティア活動や地域学習の見直し・再定義を図り、地域ボランティアや地域協働活動への意識を高めることとなった。例えば、秋の交通安全週間に際し、校内での意識向上の取組はもちろんのこと、今年度は、地域住民にも交通安全を働きかける啓発ポスターを作成し、町内要所に掲示していただき、交通安全啓発活動に寄与できたのも教職員の高い意識の表れのひとつであると考えられる。
- 4 地域ボランティア推進プロジェクトを中心とした参加依頼で、生徒らが参加・参画したイベントや行事の主なもの、こども服・学用品リユース会、街頭での赤い羽根共同募金

活動、カキかきフェスティバル、日生みなと祭り、頭島あかり祭り、てんてかんか、寒河秋祭り、日生文化祭、備前10代まんなか会議、歳末助け合い演芸会&楽市、もちつき大会（NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん）、備前♡日生大橋マラソン大会（3月予定）である。「日生盛り上げ隊」として中学校で単独参加もするが、一般社団法人ジンジャーエール等の地域団体の出店スタッフとして参加するスタイルもある。また、頭島あかりまつりでは、実行委員会の方々が来校され、クラス全員で行灯の制作に取り組むなど、地域との関係性が密になる中で、より柔軟な活動・取組が展開できるようになっている。

○具体的な成果・活動の将来的な目標、展望

- 1 子どもたちは、地域社会での経験・体験を増やす中で、自分たちの住む地域の「魅力」をリアルに感じ取るだけでなく、地域の「課題」も自覚する貴重な機会となっている。それが、未来の担うためのシティズンシップ（市民性）の意識の涵養にも繋がっていくと考える。
備前10代まんなか会議に参加した生徒は、一般社団法人ジンジャーエールのサポートを受け、子どもたちの豊かな発想を生かした地域創出活動のチームを立ち上げて、活動を始めている。
- 2 「地域と共にある学校」は、学校や地域からの一方向の働きかけではなく、双方向のやりとりであり、地域社会で子どもたちを豊かに育てていく協働的な営みだと考える。
地域の方々の多くの支援を受けて、不登校傾向の生徒や他者とのコミュニケーションが苦手な生徒も、多様な（ボランティア）活動に参加している。このことは、生徒自身の自己有用感や自己肯定感が高まることとなり、生きていく大きな自信につながっている。
「学校」だけでなく、地域の中に「多様な活動の場」をネットワーク化するということは、「多様な学びの場」が在るということになる。今日的な学校現場での様々な教育課題の解決に向けては、チーム日生中学校として多機関連携・協働が必須であるが、そこには「地域」も包括したチームづくりを目指したい。
- 3 まちづくりに決まったゴールはない。地域の強みや課題と本校の教育課題を重ね、さらに豊かで確かな教育内容を創造していきたい。具体的な活動の中で「為すことで学び」ながら、「学びのまちづくり」を今後も粘り強く進めていきたい。